爆発で大きな穴が空いた、マドリードのプエルタ・デル・ソルの一角(アルカラ通り方面)

特集

スペイン内戦80年

スペイン内戦とは何だったのか

1936-1939

A 80 años del inicio de la Guerra Civil Española

写真 / (España) Ministerio de Educación, Cultura y Deporte

文／川成 洋

マドリードで掲げられた横断幕「ノー・パサラン(奴らを通すな)!」/ Wikipedia

1936年のスペイン。日本で言えば、昭和11年、真っ白い東京の中枢部を血染めにした2・26事件が勃発したのだったが、この年の7月17日、かねてからの噂の通り、スペイン領モロッコにおいてスペイン正規軍が共和国政府に対して軍事クーデターを起こした。このクーデター成功の合言葉「異常なし」が全土の50ヶ所の駐屯地に打電され、翌日払暁、一斉にクーデターが起った。ところが、軍事クーデター、戒厳令の布告、軍事政権の樹立を目論んでいた叛乱軍首脳が全く予想していなかった事態が発生したのである。「羊のごとく従順でおとなしい」と見下されていた国民が叛乱軍の行く手に立ちはだかったのだ。

こうした軍部の不穏な動静をいち早く察知した社会労働党系の労働総同盟(UGT)、アナキスト系の国民労働連合(CNT)などの組合員、さらに市井の民衆までもが武力抵抗をしたのだった。その主力をなす勢力は、2年前の「アストゥリアス10月革命」(1934年10月5〜18日)の体験者であったろう。彼らは、マドリードとバルセロナにおいて、叛乱軍を一両日中に鎮圧した。また第3番目の都市、バレンシアでは指揮官の中で動揺が生まれたためか、その数日後に軍事叛乱の芽を潰してしまう。彼らは、叛乱軍に対して屈辱的な隷属よりも、果敢な武力抵抗による「内戦」を、さらにより良き社会を建設するための「社会改革」を選んだのだった。彼らの、抵抗のスローガンは「ノー・パサラン(奴らを通すな)!」であった。これこそ、民衆の側からすれば、まさに「7月革命」であり、ここに、スペイン内戦の「原風景」があったといえよう。

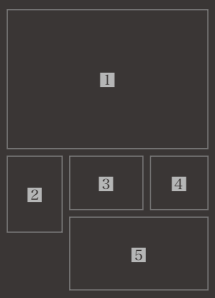
軍事クーデターの謀議段階に加わらなかったフランコ将軍が、いわば左遷先のカナリー諸島から現地モロッコに飛び、クーデターの成功直後の叛乱軍の指揮を執る。海軍が共和国陣営についていたので、アフリカ軍を本土に進攻させる手段として、ドイツのヒトラーとイタリアのムッソリーニにジブラルタル海峡の輸送作戦の全面的支援を要請する。7月28～30日、独伊の輸送機、モロッコに到着。8月5日、叛乱軍の本土上陸。こうして、挫折しかかった軍事クーデターを蘇生させることで、スペイン内戦の火蓋が切られたのだった。

首都マドリードを攻撃目標とするフランコ叛乱は破竹の勢いで北上し、また北部のモラ将軍指揮の叛乱軍も南下した。10月中旬、マドリードを10キロの線で半円形に包囲する叛乱軍は、マドリード西部のカサ・デル・カンポと呼ばれる台地に大砲陣地を構築し、連日連夜市内を猛襲した。10月24日、ソ連兵器と軍事顧問、共和国に到着。同月28日、建設中のマドリード大学のキャンパスに侵入する。同月30日と31日の両日、独伊空軍によるヨーロッパで最初の空からの威嚇攻撃を行う。11月4日、マドリードのヘタフェ空港が陥落する。同月6日、CNTは猛烈に反対したが、政府はマドリードの防衛を退役したホセ・ミアハ将軍を議長とする「マドリード防衛評議会」に一任し、首都をバレンシアに移す。同月7日未明、叛乱軍の猛襲が再開され、マドリードの陥落は、いわば秒読み段階に入った。事実、ラジオ・リスボンは叛乱軍の総師フランコ将軍が真っ白い軍馬に跨りマドリードに凱旋入城したという晴れやかな情景を放送する。この放送を受けてか、『東京朝日新聞(現・朝日新聞)』は、「マドリード入城の報」(11月8日付)と題する号外を出した。勿論、このマドリード陥落は大誤報であった。ちなみに、『東京朝日新聞』は、スペイン内戦を特集した号外を、1936年8月11日付(オリンピック合併号)、9月6日付、10月18日付、1937年1月24日付、と都合5回も発行している。

1

2 3

1カラバンチェル(マドリード南西部)から帰還した民兵と、彼らにエールを送る市民の女たち　2「マドリード防衛評議会」議長ホセ・ミアハ　3 1934年10月「カタルーニャ国家」成立宣言後、軍によって投獄されたカタルーニャ自治政府の要人たち



1 破壊されたマドリードのプレシアドス通り　2 叛乱軍の爆撃から逃れようとする母と子供たち　3 瓦礫のなか佇む犠牲者の家族　4 叛乱軍の空爆によって家を失った一家　5 叛乱軍の空爆で破壊されたマドリードのロス・マドラソ通りの建物

1 2 3 4

1叛乱軍から奪った武器を手に取る共和国派の民兵たち　2叛乱軍の部隊の動きを木の上から監視している共和国派の兵士(1937年5月)　3戦闘に参入するため、最前線へと向かう突入部隊　4バレンシアからマドリードへ向かう兵站部隊

1936-1939

A 80 años del inicio de la Guerra Civil Española

1937年7月31日、共和国政府をバルセロナに移す。従って、バルセロナは、カタルーニャ、バスク、それにスペイン共和国と3つの政府所在地となる。

実際にマドリードが陥落したのは、フランコが内戦の勝利宣言する1939年4月1日の、4日前の3月28日であった。つまり、終始劣勢を強いられ、さまざまな政治的・社会的問題点――バスクとカタルーニャの地方自治政府の誕生と共和国政府との関係、社会主義国ソ連の同盟国スペイン共和国への援助と支配権の確立、呉越同船の人民戦線の結成と破綻、個人的な倫理観や世界観に基づく政治参加、55ヶ国からの義勇兵による国際旅団の参加、民主主義国の怯懦とエゴイズム、列強の代理戦争的側面、政治的粛清、戦争プロパガンダの政治優先主義、アナキストの共和国政府の入閣、敵の士気を削ぐための非戦闘員の大量殺戮、無差別絨毯爆撃――をはらみながらも、しかもその80年後の現代社会においても、解決に至らない「未決の現代史」的側面を残しつつ、共和国陣営は最後の土壇場まで抵抗したのだった。

繰り返しになるが、スペイン内戦が終息したのが1939年4月1日。まさにその5ヶ月後の9月1日、ドイツ軍のポーランド電撃的侵攻による第2次世界大戦の勃発。スペイン内戦が「第2次世界大戦の前哨戦」といわれている由縁である。しかし、独裁者フランコのスペインは、世界大戦に「中立」を宣言した。

川成 洋　かわなり よう｜Yo Kawanari｜1942年札幌で生まれる。北海道大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士課程修了。社会学博士(一橋大学)。法政大学名誉教授。スペイン現代史学会会長、武道家(合気道6段、杖道3段、居合道4段)。書評家。主要著書:『青春のスペイン戦争』(中公新書)、『スペインー未完の現代史』(彩流社)、『スペインー歴史の旅』(人間社)、『ジャック白井と国際旅団ースペイン内戦を戦った日本人』(中公文庫)ほか。

1 2 3

1不発弾を回収する民兵隊。重さ280kgの爆弾は叛乱軍の戦闘機から投下された　2敵軍のガスマスクを装着した民兵たち。マスクは1937年3月のグアダラハラの戦闘で敗走したイタリア軍が落としたもの　3戦闘機に爆弾を搭載する民兵（1936年8月）

共和政府大統領
マヌエル・アサーニャ

スペイン第二共和国

総統
フランシスコ・フランコ

軍事クーデター

共和国派（ロイヤリスト）

人民戦線内閣
カタルーニャ自治政府
バスク自治政府
全国労働者連合（CNT）
イベリア・アナキスト連盟（FAI）
労働総同盟（UGT）
スペイン社会主義労働党（PSOE）
スペイン共産党（PCE）
統一マルクス主義労働党（POUM）
国際旅団
ソ連

相関図

叛乱軍派（ナショナリスト）

国家防衛評議会
統一ファランヘ党（FET y de las JONS）
カルロス党
アルフォンソ王支持派
スペイン軍人同盟
スペイン陸軍
治安警備隊
ドイツ
イタルア
ポルトガル

1936年7月 → → → → 1939年2月

勢力図

戦地へ向かう道中にて、牛乳をふるまわれる民兵たち

ESPAÑA. MINISTERIO DE CULTURA. El Archivo Fotográfico de la Delegación de Propaganda y Prensa de Madrid durante la Guerra Civil, < 表 紙 >AGA,33,F,04052,54327,001 / <P1>AGA,33,F,04065,55659,001 / <P3>AGA,33,F,04038,53131,001 / <P5-1>AGA,33,F,04040,53343,001 / <P5-2>AGA,33,F,04057,54797,001 / <P5-3>AGA,33,F,04045,53803,001 / <P6-1>AGA,33,F,04037,53045,001 / <P6-2>AGA,33,F,04052,54328,001 / <P6-3>AGA,33,F,04043,53601,001 / <P6-4>AGA,33,F,04053,54399,001 / <P6-5>AGA,33,F,04041,53438,001 / <P7-1>AGA,33,F,04039,53259,001 / <P7-2>AGA,33,F,04066-55741,001 / <P7-3>AGA,33,F,04042,53550,001 / <P7-4>AGA,33,F,04055,54619,001 / <P8-1>AGA,33,F,04042,53538,001 / <P8-2>AGA,33,F,04065,55676,001 / <P8-3>AGA,33,F,04064,55628,001 / <P9>AGA,33,F,04050,54254,001

年表

1936-1939
A 80 años del inicio de la Guerra Civil Española

年・月		スペイン	世界・日本・その他
1934	10月	CEDA党員の入閣に反対しアストゥリアスをはじめ全国でゼネスト、「十月革命」蜂起、政府は軍隊を投入してこれを制圧	
1936	1月	人民戦線協定成立	
	2月	総選挙で人民戦線派勝利、アサーニャ首班の人民戦線内閣成立	2・26事件（日本）
	5月	アサーニャ、大統領に就任	
	7月	モロッコでフランコらが軍事蜂起、スペイン内戦始まる。バルセロナで人民オリンピックを開催しようとするが内戦勃発のため中止	
	10月	ロンドンに不干渉委員会設置。フランコが叛乱軍側の総司令官・国家主席に選出される	
	11月	共和国政府がバスク自治憲章を制定。マドリッド包囲戦はじまる。共和国政府、バレンシアへ首都移転。国際旅団の参戦。独・伊がフランコ政権承認	
1937	2月	ハラマ河の戦闘	
	4月	フランコの政党統一令による新ファランヘ党創立	
		ドイツ・コンドル空軍、ゲルニカを爆撃	
	5月	バルセロナで共産党系PSUCと反スターリニスト系POUM・アナキスト系CNTの衝突	
	7月	ブルネテの戦闘、この戦闘で唯一の日本人義勇兵ジャック白井が戦死	
	10月	叛乱軍側が、北部地方を制圧。共和国政府、バルセロナへ首都移転	
	12月	テルエルの戦闘	日独伊防共協定。日中戦争はじまる。日本政府はフランコ政権を正式に承認
1938	1月	フランコ、正規の内閣を組織	
	11月	フランコ、労働憲章を公布。共和国政府軍、エブロ河の渡河作戦で反撃に出るが失敗。国際旅団解散	
	12月	フランコ軍、カタルーニャ攻撃を開始	
1939	1月	フランコ軍、バルセロナを占領	
	2月	英・仏がフランコ政権承認	
	3月	マドリッドでカサード大佐のクーデター	
	4月	フランコ、内戦の終結を宣言	
	9月	アメリカがフランコ政権を承認。第2次世界大戦におけるスペインの厳正中立を宣言	第2次世界大戦始まる（～1945）